

令和5年度

東根市外二市一町共立衛生処理組合
地球温暖化対策実行計画（事務事業編）
取組状況報告書

令和6年7月

東根市外二市一町共立衛生処理組合

1. はじめに

組合では、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、平成30年4月に第1次計画となる「東根市外二市一町共立衛生処理組合 地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定し、温室効果ガスの排出削減に取り組んで参りました。その後、令和3年10月に国の「地球温暖化対策計画」が5年ぶりに改定されたことや1次計画の策定から5年を経たことを契機に、令和5年3月に第2次となる計画（以下「実行計画」という。）を策定しています。

実行計画では、計画最終年度（令和12年度）に事務事業に伴って排出される温室効果ガスの排出量を基準年度より、エネルギー起源で32%、非エネルギー起源で2.34%削減することを目標としています。また、計画の中間目標年度（令和9年度）ではエネルギー起源の排出量を26.5%、非エネルギー起源の排出量を1.28%削減することを目標に取り組んでいます。

以下、令和5年度の取組結果について報告します。

2. 温室効果ガス排出量の状況

（1）エネルギー起源の状況

令和5年度の温室効果ガス排出量は3,182.2t-CO₂となり、基準年度の排出量と比較すると550.4t-CO₂（14.7%）の削減となりました。また、中間目標年度の排出量と比較すると、441.98t-CO₂（16.1%）の増加となり、目標を達成していません。排出量の主な要因である「電気使用量」については、基準年度の排出量と比較すると減少しており、一定の成果を上げることができています。引き続き中間目標達成に向けて、取り組みを積み重ねていく必要があります。

表 2-1) エネルギー起源の温室効果ガス排出量

（単位：t-CO₂）

項目	平成28年度 (基準年度)	令和9年度 (中間目標)	令和5年度 (実績値)	令和5年度				削減目標	
				基準年度との比較		中間目標との比較			
				増減	増減率	増減	増減率		
エネルギー 起源	電気使用量	3,298.2	2,338.73	2,739.3	△ 558.9	△ 16.9%	400.57	17.1%	32% (26.5%)
	燃料使用量	434.4	401.5	442.9	8.5	1.9%	41.41	10.3%	
合計	3,732.6	2,740.22	3,182.2	△ 550.4	△ 14.7%	441.98	16.1%		

※削減目標の（ ）内は中間目標年度における削減目標値

（2）非エネルギー起源の状況

令和5年度の温室効果ガス排出量は、8,516.17t-CO₂となり、基準年度の排出量と比較すると、11,346.82t-CO₂（57.1%）の削減となりました。また、中間目標年度の排出量と比較すると、11,091.37t-CO₂（56.6%）の削減となり、目標を達成しました。これは、「一般廃棄物の焼却量」に係る排出量が大きく減少したことが主な要因です。

表 2-2) 非エネルギー起源の温室効果ガス排出量

(単位：t-CO₂)

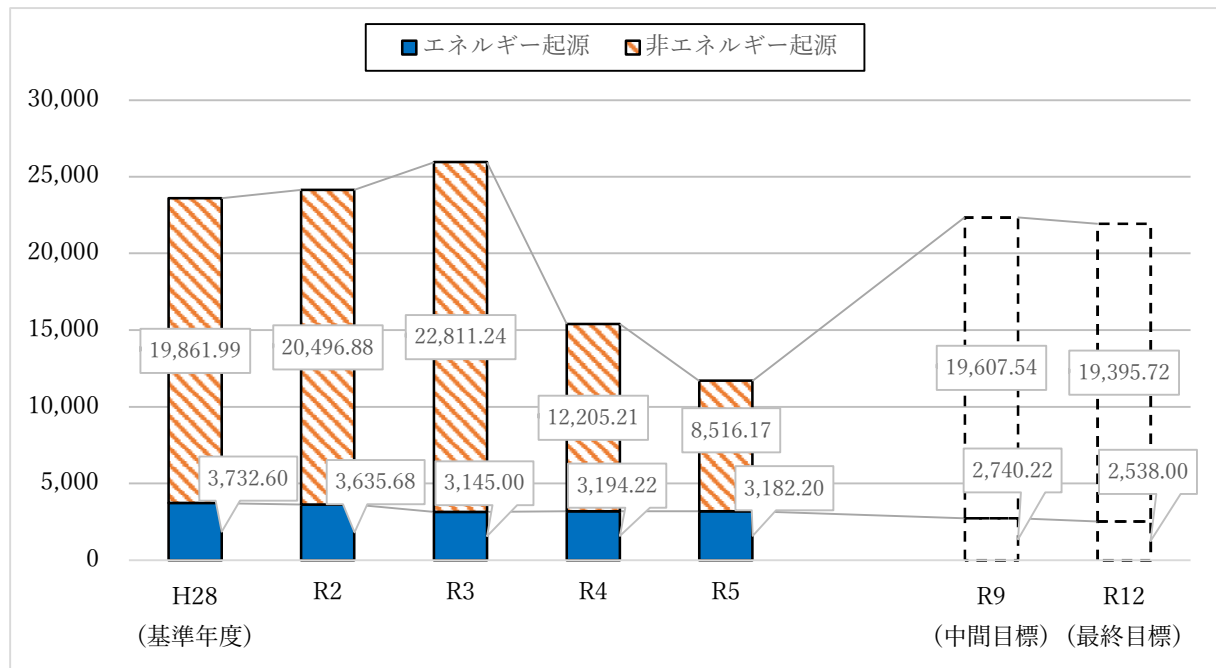
項目	平成28年度 (基準年度)	令和9年度 (中間目標)	令和5年度						削減目標
			(実績値)	基準年度との比較		中間目標との比較			
				増減	増減率	増減	増減率		
非エネルギー起源	一般廃棄物の焼却量	19,855.44	19,602.27	8,510.83	△ 11,344.61	△ 57.1%	△ 11,091.44	△ 56.6%	2.34% (1.27%)
	し尿の処理量	2.24	1.24	1.84	△ 0.40	△ 17.9%	0.60	48.4%	53.12% (44.64%)
	その他	4.31	4.03	3.50	△ 0.81	△ 18.8%	△ 0.53	△ 13.2%	効率的な 運転管理
合計	19,861.99	19,607.54	8,516.17	△ 11,345.82	△ 57.1%	△ 11,091.37	△ 56.6%	2.34% (1.28%)	

※削減目標の()内は中間目標年度における削減目標値

※令和5年度 地球温暖化対策推進法施行令改正前の係数で算定した温室効果ガスの排出量は、「8,589.43t-CO₂」です。

表 2-3) 計画期間における温室効果ガス排出量の推移

(単位：t-CO₂)



3. 今後の取り組み

令和5年度は、エネルギー起源の温室効果ガス排出量が中間目標を達成できなかった一方、非エネルギー起源の温室効果ガス排出量は、「一般廃棄物の焼却量」に係る排出量が減少したことにより、目標を大きく下回る結果となりました。

非エネルギー起源の温室効果ガス排出量の大部分を占める「一般廃棄物の焼却量」は、その年度の廃棄物搬入量や廃プラスチックの組成割合に大きく左右される部分もありますが、引き続きエネルギー起源の温室効果ガス排出量の削減のため、電気・燃料等の効率的な使用と節約を心掛け、使用量の削減に努めるとともに、高効率、省エネ、低燃費に寄与する機器の積極的な導入を検討するなど、最終年度の削減目標達成に向けて取り組んで参ります。